

(算数)

**基礎基本の定着を図る算数科の指導をめざして**  
**―「数と計算」の領域を中心にした指導法の工夫―**

大阪市立平尾小学校 研修部

1. 研究主題設定の理由

本校の児童は素直で明るく、課題には真面目に取り組む姿勢がみられる。しかし、学習に対して自信が持てず、思ったことや感じたことを自らの言葉で表現することを苦手と感じ、進んで何事にもチャレンジしようとする意欲に乏しいという面が見られる。

本校の教育目標である「進んで学ぶ子、思いやりのある子、たくましい子」をめざし、教育活動を進める中で、魅力ある授業づくりにかかわる教員の研究・研究活動は欠かせない。

魅力ある授業づくりのために昨年度から研究教科を算数科とし、研究テーマを「意欲を持って学習に取り組み子を育てる ～算数科における基礎基本の確かな定着をめざして～」で研究領域を定めず、授業の一連の流れを共通理解することを軸に研究を進めてきた。「出あう」「気づく」「考える」「ふりかえる」「生かす」の5つの授業の流れを共通理解することで児童の実態に応じた授業づくりができた。また年度初めと終わりに計算テストを実施し、計算の定着を図るように努めた。正解率が上がる成果は得たものの経年調査の結果から、「数と計算」の領域が大阪市の平均を2ポイント下回る結果となり課題も残った。そこで今年度は昨年度の結果を踏まえ、領域を「数と計算」を中心に基礎基本の定着を図るとともに、児童がより主体的に学習に取り組むことができる指導法の工夫をしていきたいと考えた。

2. 研究の内容

(1) **論理的思考の育成**

本校では5段階の学習の流れを意識した授業づくりを目指してしる。算数科の学習では、児童がまず自分で問題を解決し、集団で考えを練り合い、よりよい解決法を探っていくという問題解決型学習を目指している。

「出あう」の段階では、学習への興味・関心や好奇心をもたせるような発問や教材を工夫した。興味をもって課題をとらえたり、既習事項との違いに気づいたり、児童の「つぶやき」を授業で活かしながら学習を進めてきた。

「考える」段階では、子ども自らが問題解決のための見通しをもち、自力で解決する時間を確保することを大切にしてきた。その際、自分の立てた見通しに沿って、具体物を用いたり、図や数直線、グラフなどを使ったりしながら、既習の知識や考え方を活かして解決できるようにした。また、ペアやグループでの伝え合いの場を積極的に設けた。授業実践を通して、多様な気づきが生まれる姿、児童自らがこれまでの学習とのつながりを意識する姿、友だちと協力して課題を解決する姿がみられるようになった。

(2) **系統性を踏まえた指導**

5段階の学習の流れに沿って、解決のための見通しや自分の考え、学習のまとめを

ノートに書くように指導した。その際、自分の考えを友だちに伝えたり、自分で振り返ったりするときに見やすくするために1時間の授業の見開きのページを使うようにした。基本的なノートの書き方については、昨年度から1年生から6年生まで同じように指導するようにした。

### (3) 計算力調査の活用

本校の児童の実態として「学習したことが定着しにくい」という課題がある。その原因として、学年ごとの縦の系統性を意識した指導や、既習事項を振り返るための復習の機会が十分ではなかったことにあると考えた。そこで、昨年度から本校独自の「計算力調査」を実施することにした。「計算力調査」は、1学期と3学期に全く同じ計算問題を実施し、その結果を分析した。つまずきやすい問題を学校全体で共通理解することで、「あさがく」の時間を重点的に復習させるなど、日々の学習に活かしたりすることができた。

## 3. 研究の成果と課題

### (1) 研究の成果

- ・学力向上モデル推進校に公募し、教育指導員による指導助言を受けながら、授業改善をめざした研修や模擬授業を実施してきたことで、縦の系統性や横の系統性を意識した授業づくりにつながった。
- ・5段階の授業展開が定着してきたことで授業の流れがスムーズになり、児童が見通しをもって学習に取り組むことができるようになった。
- ・全学年、ノートの書き方を統一し、1時間の学習の流れがわかるようにした。どの学年でも板書に同じ記号を使うことで、習熟度別学習など、担当者がかかわった時でも児童が戸惑いなく学習することができた。また、学習の成果が表れるようなノートづくりをめざしてきたことで、児童自らが自分のノートをもとに既習事項をふりかえる場面が増えてきた。
- ・昨年度から実施している「計算力調査」の結果からつまずきやすい問題や定着できていない問題を学校全体で共通理解することができた。また、週1回の朝の時間を活用して、「計算力調査」で明らかになった課題に対応したプリント学習をする時間を設けた。その結果、学習予定のレディネスが向上しつつある。
- ・ハンドサインを活用したり、ペアやグループでの伝え合いの場を積極的に取り入れたことで、友だちの考え方とのちがいや共通点に気づいたり、頭の中で考えたことを表現したりすることを繰り返すことができ、進んで自分の思いや考えを伝えられるようになってきた。

### (2) 今後の課題

- ・伝え合う活動を積み重ね、「伝え合う」から「話し合う」活動に発展させ、児童が更に考えを深められる手立てを工夫する。
- ・他教科との関連性も考えながら、学校全体で系統立てた「カリキュラムマネジメント」に取り組んでいきたい。